

Kansai Economic Insight Monthly

2019/12/23

Vol.80 November/December

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 研究統括兼数量分析センター長)、KARAVASILEV Yani (APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)、Cao Thi Khanh Nguyet(関西学院大学講師)、野村亮輔、車競飛(APIR インターン)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	10
主要月次統計	14
Release Calendar	15

要旨

- 景気は足下悪化・先行きは下げ止まりの兆し※ -

- ✓ 10月の生産(季節調整値)は2カ月ぶりの前月比マイナス。生産用機械工業、汎用・業務用機械工業、化学工業(除. 医薬品)等が減産となった。
- ✓ 11月の貿易収支は6カ月連続の黒字となったが、輸出入とも前年比マイナスが続いている。貿易総額は昨年台風からの反動が見られた本年9月を除けば、昨年12月から連続で縮小。国・地域別では、対中輸入、対EU輸出、対米輸出が大きく減少した。
- ✓ 11月景気ウォッチャー現状判断DIは40.2と、2カ月ぶりに前月比改善。水準ははまだ低いが、キャッシュレス決済によるポイント還元の効果が出支えしている。
- ✓ 9月の関西2府1県のコア賃金指数は2カ月連続で前年比減少し、実質賃金も7カ月連続で同減少した。
- ✓ 10月の大型小売店販売額は前年を大幅に下回った。業態別に見れば、百貨店では増税前の駆け込み需要の反動がみられ、スーパーは気温高で季節商品が低調であった。
- ✓ 10月の新設住宅着工戸数は前年同月比-1.6%と3カ月連続で減少した。分譲は増加したが、持家と貸家は減少し、全体を押し下げた。
- ✓ 10月の求人倍率は2019年5月以降、9月を除き改善がみられない。求人数の減少幅が求職者数のそれより大きいため。また、完全失業率は2カ月連続で悪化した。
- ✓ 10月の建設工事出来高は前年同月比+4.5%と20カ月連続で増加。11月の公共工事請負金額(季節調整値)は前月比+1.0%と大幅に伸びた前月の高水準を維持している。
- ✓ 11月の関空への外国人入国者数は前年比14カ月連続のプラスだが、前月に引き続き小幅にとどまった。国籍別(9月)に見ると、中国は12カ月連続、台湾は3カ月連続、香港は3カ月ぶりの前年比増加だが、韓国は16カ月連続で同減少した。
- ✓ 11月の中国の製造業購買担当者景況指数PMIは前月から上昇し、7カ月ぶりに景気分岐点(50)を上回った。工業生産も前月から加速したが、実質消費や固定資産は横ばいである。先行きについては引き続き注視が必要である。

【関西経済のトレンド】

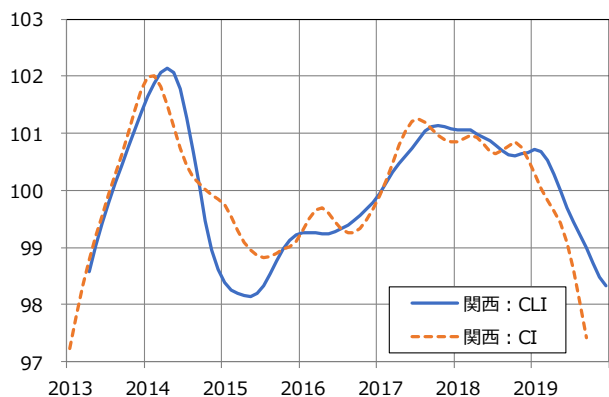
	2018年		2019年										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生産	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↘	
貿易	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↗
センチメント	↗	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↗
消費	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↘	
住宅	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↗	↘	↘	↗	
雇用	↘	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↘	
公共工事	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗
中国	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↘	↗

(*トレンドの判断基準)

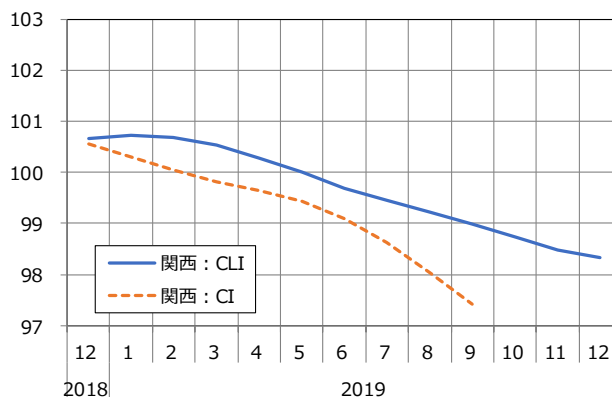
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域幅広い工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作CLI)の推移】

CI一致指数・試作CLIの推移(2013年1月~2019年12月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2018年12月~2019年12月)



【釧工業生産動向】

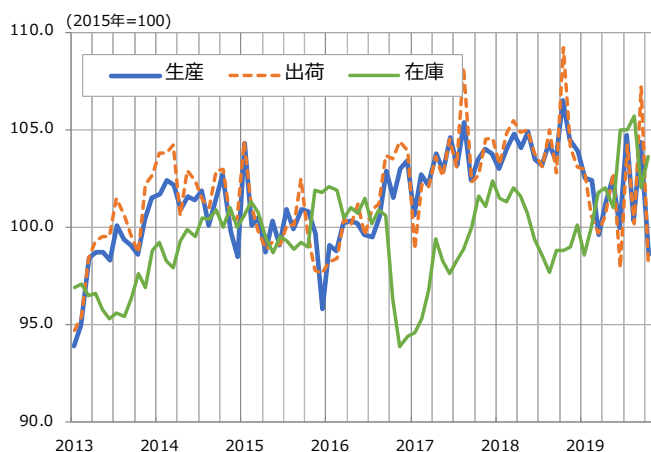
(1) 関西の生産動向

関西 10 月の釧工業生産動向(速報値：季節調整済、2015 年=100)を見ると、生産は 98.6 で前月比-5.6%、出荷は 98.3 で同-8.3%と、それぞれ 2 カ月ぶりに減少した。在庫は 103.6 で、同+1.6%と 2 カ月ぶりに増加。近畿経済産業局は同月の基調判断を、「生産は緩やかな持ち直しの動きに一服感」と前月から据え置いた。

10 月の生産指数を業種別にみると減産となったのは、生産用機械工業(前月比-27.9%、2 カ月ぶり)、汎用・業務用機械工業(同-14.1%、2 カ月ぶり)、化学工業(除. 医薬品)(同-7.4%、2 カ月ぶり)等であった。一方、増産となったのは、電気・情報通信機械工業(同+10.7%、3 カ月ぶり)、金属製品工業(同+7.6%、2 カ月ぶり)、窯業・土石製品工業(同+3.4%、2 カ月連続)等であった。

なお、生産と強い関係がある日銀の実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、10 月(確報値)は 108.5 で、前月比-4.5%と 2 カ月ぶりのマイナスとなった。

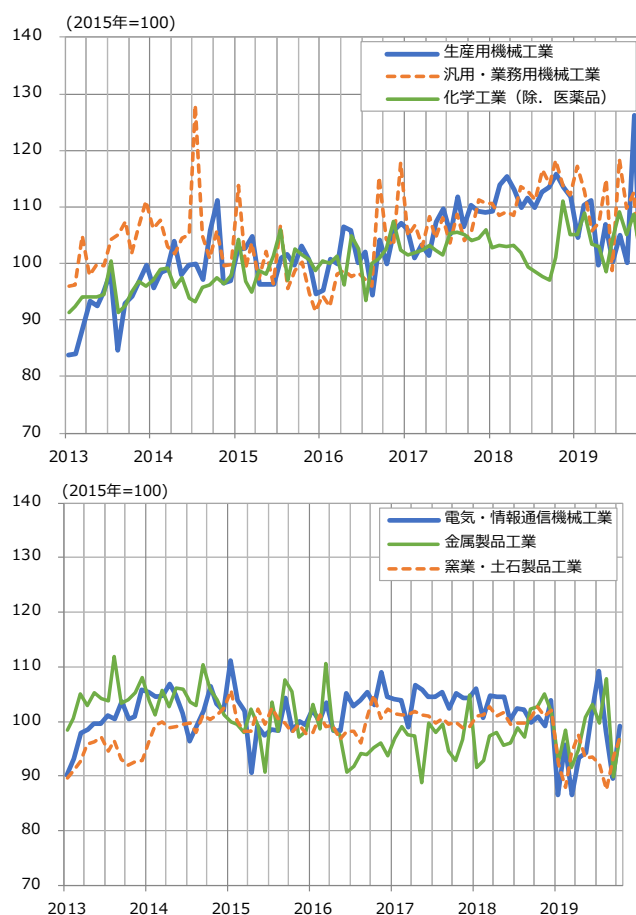
関西の釧工業生産動向の推移(2013 年 1 月～2019 年 10 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「釧工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013 年 1 月～2019 年 10 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「釧工業生産動向」

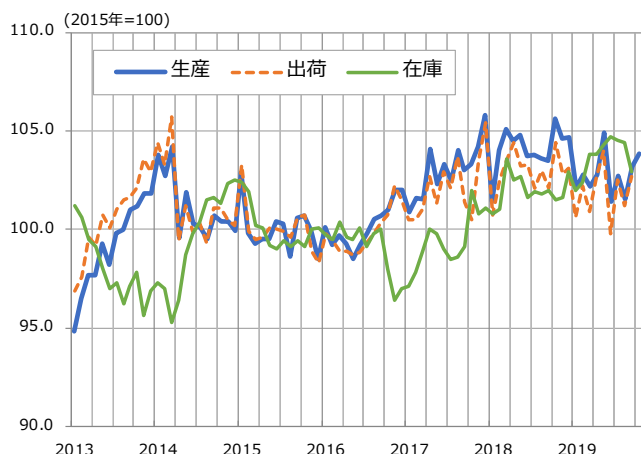
(2) 全国の生産動向

全国 10 月の釧工業指数(確報値：季節調整済、2015 年=100)を見ると生産は 98.6 で前月比-4.5%、出荷は 98.1 で同-4.5%と、それぞれ 2 カ月ぶりに低下した。在庫は 104.2 で同+1.3%と、4 カ月ぶりに上昇した。

10 月の生産指数を業種別にみると、自動車工業(前月比-7.9%)、汎用・業務用機械工業(同-13.1%)、食料品・たばこ工業(同-5.1%)等が減産となった。一方、電子部品・デバイス工業(同+0.9%)、石油・石炭製品工業(同+1.8%)、窯業・土石製品工業(同+0.1%)等が増産となった。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、11 月は前月比-1.5%と減産が、12 月は同+1.1%と増産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月~2019年10月)



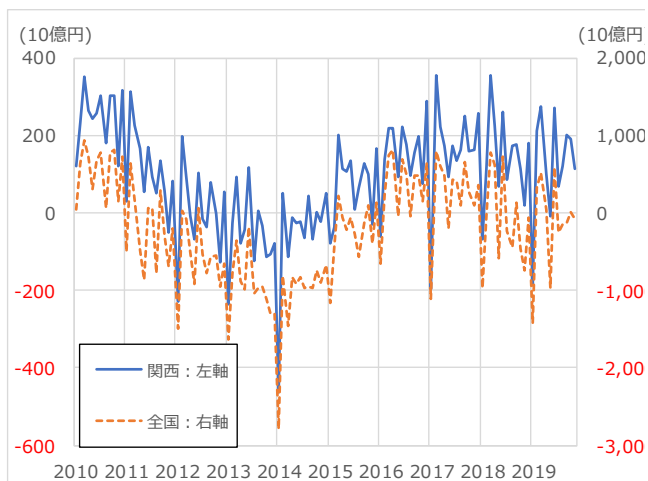
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西 11 月の貿易収支は +1,143 億円と 6 カ月連続の黒字となった。輸出額は 2 カ月連続の前年同月比マイナス。輸入額も 2 カ月連続で同マイナスとなった。輸出入の合計である貿易総額は同-13.2%と 2 カ月連続で縮小した。昨年 9 月は大型台風の影響で関西国際空港が一時閉鎖されたことにより反動増がみられる本年 9 月の高い伸びを除けば、2018 年 12 月から貿易総額は縮小している。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月~2019年11月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

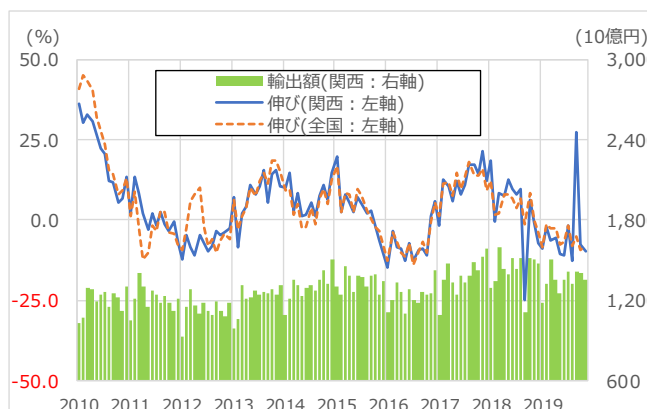
また、全国 11 月の貿易収支(速報値)は-821 億円となり、2 カ月ぶりの赤字となった。貿易総額は 7 カ月連続で縮小している(前年同月比-12.0%)。

(2) 輸出

関西 11 月の輸出額(速報値)は 1 兆 3,553 億円で前年同月比-9.9%と 2 カ月連続のマイナス。財別にみれば、主に建設用・鉱山用機械と遊戯用具が減少した。なお、半導体等電子部品の輸出額は 9-11 月 3 カ月連続で過去最高額。

日銀の実質輸出(季節調整値、2015 年平均=100)によると、11 月(速報値)は 109.4 となり前月比+0.8%増加し、2 カ月ぶりのプラス。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月~2019年11月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

全国 11 月の輸出額(速報値)は 6 兆 3,822 億円で、前年同月比-7.9%と 12 カ月連続の減少。財別にみれば、主に自動車、鉄鋼、及び建設用・鉱山用機械等が減少した。

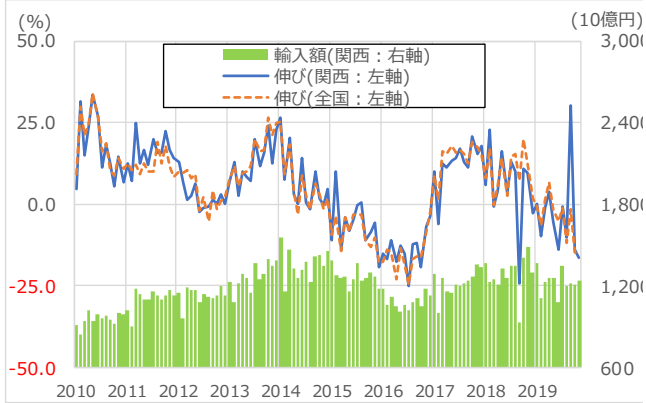
(3) 輸入

関西 11 月の輸入額(速報値)は 1 兆 2,409 億円で、前年同月比-16.5%と 2 カ月連続で減少した。財別にみれば、主に通信機等と原油及び粗油が減少した。

日銀の実質輸入(季節調整値、2015 年平均=100)によると、11 月(速報値)は 103.4 となり、前月比+5.0%増加し、2 カ月ぶりのプラス。

全国 11 月の輸入額(速報値)は 6 兆 4,642 億円で、前年同月比-15.7%と 7 カ月連続の減少となった。財別にみれば、原油、通信機、及び石油製品等が減少した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月~2019年11月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西 11 月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+2,308 億円と 10 カ月連続の黒字となった。前年同月比でみると黒字幅は+107.3%と大幅に拡大し、3 カ月連続のプラス。輸出額(9,357 億円)は同-4.8%と 2 カ月連続で減少した。財別にみれば、鉄鋼、電気回路等の機器等が減少した。輸入額(7,049 億円)も同-19.1%と 2 カ月連続の減少となった。前月からの傾向が変わらず、主に通信機、衣類及び同附属品等が減少した。

うち、対中貿易収支は-353 億円と 5 カ月連続の赤字となったが、赤字幅は前年同月比-75.6%縮小した。輸出額(3,482 億円)は同-7.9%と 2 カ月連続の減少。財別にみると、電気回路等の機器、原料品等が減少した。輸入額(3,835 億円)も同-26.6%と 2 カ月連続で減少した。財別にみると、通信機、がん具及び遊戯用具等が減少した。

対米貿易収支は+682 億円の黒字だが、黒字幅は前年同月比-32.3%縮小した。輸出額(1,754 億円)は同-20.5%と 2 カ月連続の減少。減少幅は前月(同-14.0%)から拡大した。財別にみれば、建設用・鉱山用機器、遊戯用具等が減少した。輸入

額(1,072 億円)は同-10.6%と、2 カ月連続の減少。財別にみれば、天然ガス及び製造ガス、半導体等製造装置等が減少した。

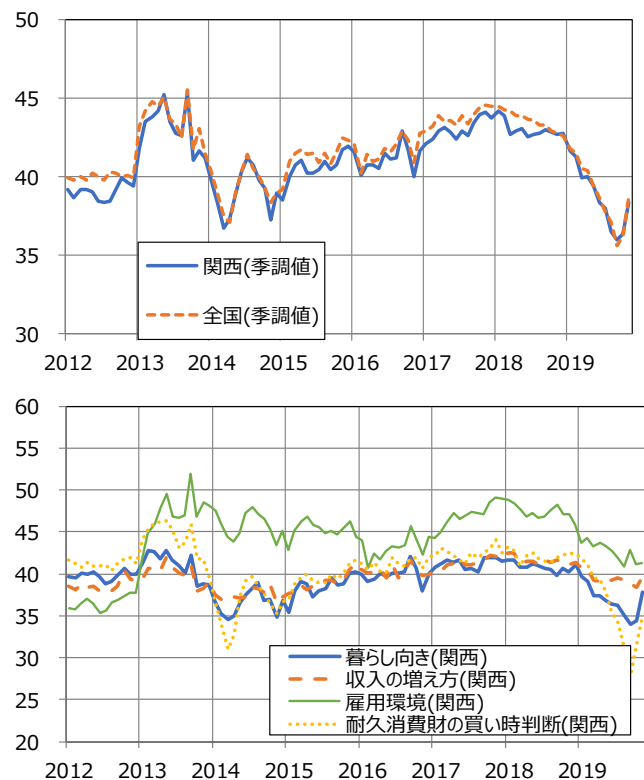
対 EU 貿易収支は-237 億円と 2 カ月ぶりの赤字となった。輸出額(1,382 億円)は前年同月比-18.2%と、2 カ月連続の減少。減少幅は前月(同-6.3%)から拡大した。財別にみれば、遊戯用具、建設用・鉱山用機械等が減少した。輸入額(1,619 億円)は同+1.0%と、2 カ月ぶりのプラス。財別にみれば、たばこ、医薬品等が増加した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西 11 月の消費者態度指数(季節調整値：APIR 推計)は 38.3 と前月比+2.0 ポイントと、2 カ月連続で改善した。同指数構成項目 4 指標のうち、特に改善がみられたのは耐久消費財の買い時判断指数(35.0)と暮らし向き指数(37.9)で、それぞれ前月比+3.5 ポイント上昇した。雇用環境指数(41.2)、収入の増え方指数(39.6)もそれぞれ改善した(同+0.1 ポイント、同+1.3 ポイント)。

消費者態度指数の推移(2012年1月~2019年11月)



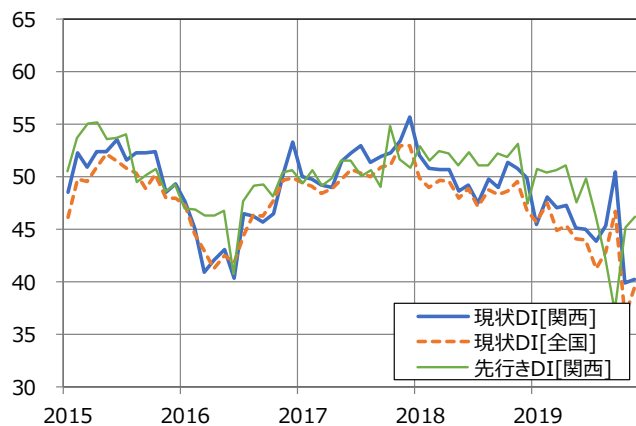
(出所) 内閣府「消費動向調査」

全国(季節調整値)は38.7と前月比+2.5ポイントとなり、2カ月連続の改善。上昇幅は2013年9月(+3.0ポイント)以来の大きさであった。同指数構成項目4指標全てが前月より上昇した。内訳をみると、耐久消費財の買い時判断指数(35.3)は前月比+4.3ポイントと2カ月ぶりの改善。暮らし向き指数(38.0)は同+3.5ポイントと2カ月連続、収入の増え方指数(40.1)は同+1.3ポイントと2カ月連続、雇用環境指数(41.4)は同+0.8ポイントと7カ月ぶりにそれぞれ改善した。結果、内閣府は基調判断を「持ち直しの動きがみられる」と25カ月ぶりに上方修正した。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西11月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は40.2と前月比+0.3ポイント小幅上昇し、2カ月ぶりのプラス。全国の同指数は39.4と前月比+2.7ポイント上昇し、2カ月ぶりに改善した。関西、全国ともに消費増税の影響から、水準はいまだ低いが、キャッシュレス決済によるポイント還元の効果の下支えしている。

景気ウォッチャー調査の推移(2015年1月～2019年11月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

先行き判断DI(季節調整値)は、関西で46.2と前月比+1.1ポイント上昇。2カ月連続の改善だが、消費増税の影響が長期化する可能性もあり、消費の停滞を懸念する声も見られる。

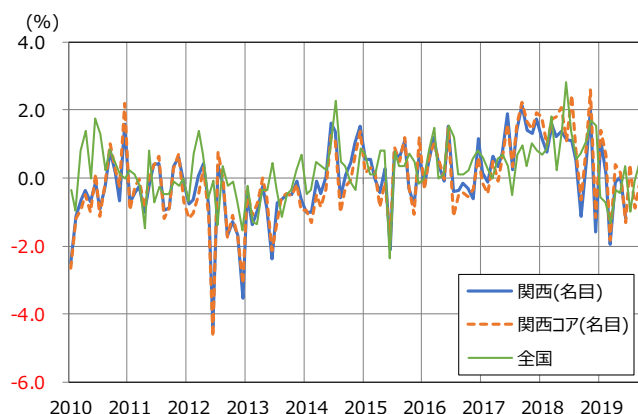
全国は前月比+2.0ポイント上昇し45.7と2カ月連続で改善した。

【所得・個人消費】

(1) 現金給与総額

9月の現金給与総額を公表府県別に見ると、兵庫県が前年同月比+2.7%(26カ月連続)、京都府が同+0.1%(3カ月ぶり)と、それぞれ増加した。一方、和歌山県は同-2.9%(2カ月連続)、大阪府は同-1.4%(7カ月連続)、滋賀県は同-0.2%(2カ月ぶり)とそれぞれ減少した。京都・大阪・兵庫の加重平均をとった9月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は前年同月比-0.0%減少し、2カ月連続の悪化。物価変動の影響(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた実質現金給与総額(実質賃金)は9月同-0.2%と7カ月連続の減少。

現金給与総額の推移(2010年1月～2019年10月)



(注)関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

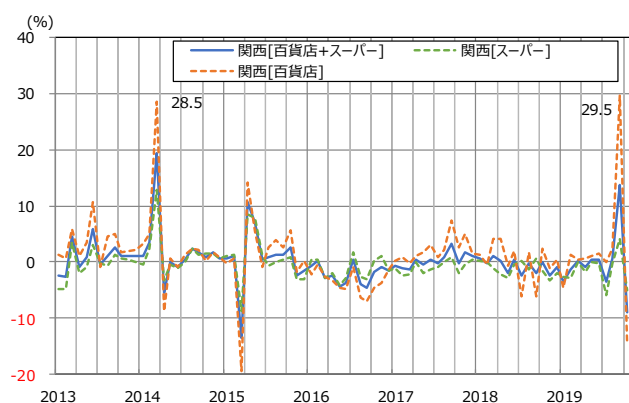
全国10月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比+0.0%増加し、2カ月連続のプラス。内訳を見ると、所定内給与は同+0.2%、4カ月連続で増加。所定外給与は-0.1%と2カ月ぶりのマイナス。特別に支払われた給与は同-8.5%と2カ月ぶりに減少した。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた10月の実質現金給与総額は同-0.4%と2カ月ぶりに減少した。

(2) 大型小売店販売額

関西10月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は2,828億円となり、前年同月比-8.9%と3カ月

ぶりに前年の水準を下回った。増税前の駆け込み需要(同+13.7%)の反動がみられる。

大型小売店販売額の推移 (2013年1月~2019年10月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

うち、百貨店は同-14.5%と、9カ月ぶりのマイナス。気温高により衣類売り上げの苦戦に加えて、駆け込みの反動減は前回ほど落ち込んでいるわけではないが、影響が大きい。

スーパーの販売額は同-5.1%と2カ月ぶりのマイナス。気温高で季節商品の動きが良くなかった。

なお、11月の関西百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は前年同月比-7.2%減少し、2カ月連続のマイナス。免税売上高指数を件数で除した一件当たりの売上単価は同-2.6%と2カ月連続のマイナスとなった。

全国10月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆4,577億円となり、前年同月比-8.1%と3カ月ぶりのマイナス。うち、百貨店は同-17.3%と3カ月ぶりのマイナス。スーパーは同-3.7%と3カ月ぶりのマイナス。なお、小売業販売額指

数(季節調整済、後方3カ月移動平均)は前月比-1.3%と3カ月ぶりのマイナス。経済産業省は小売業の基調判断を前月の「増加している」から「一進一退」へと下方修正した。首都圏に台風が直撃しており、消費マインドの冷え込みもあったと思われる。

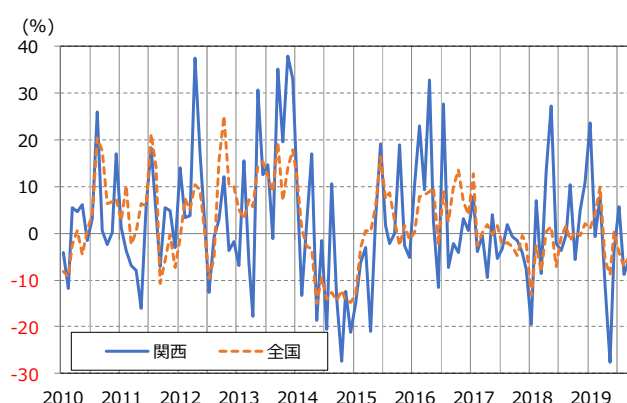
【住宅投資】

(1) 新設住宅着工の動向

関西10月の新設住宅着工戸数は11,314戸となり前年同月比-1.6%と3カ月連続で減少した。利用関係別に見ると、分譲は増加したが、持家と貸家は減少し、全体を押し下げた。持家は2,963戸で、同-10.2%と15カ月ぶりの減少。消費増税後の持家需要は弱い。貸家は3,733戸で、同-18.3%と3カ月連続で減少した。分譲は4,559戸で同+26.9%と2カ月連続のプラス。うち、マンションは2,692戸となり、同+67.0%と2カ月連続で増加した。

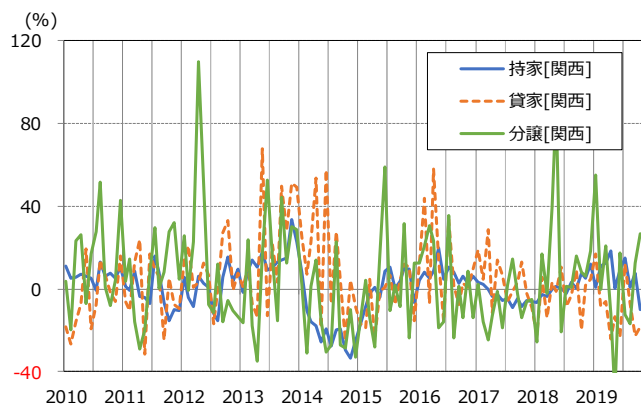
全国10月の新設住宅着工戸数は77,123戸となり、前年同月比-7.4%と4カ月連続の減少となった。利用関係別に見ると、持家は24,495戸(同-5.6%)と3カ月連続のマイナス。貸家は29,417戸(同-16.5%)と14カ月連続で減少し、全体を押し下げた。一方、分譲は22,896戸(同+7.0%)と5カ月連続の増加。うち、マンションは9,998戸(同+16.2%)で、3カ月連続の増加となった。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2019年10月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2019年10月)

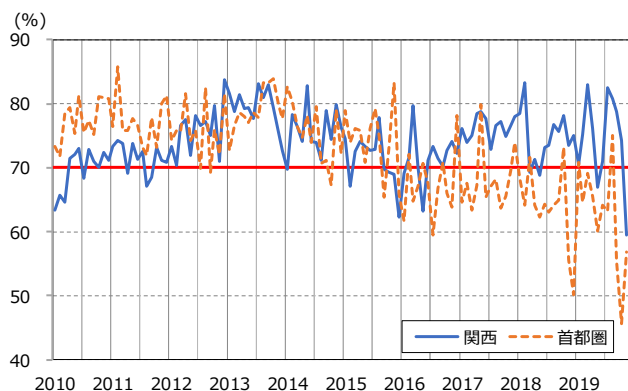


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

(2) マンション市場動向

関西 11 月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は 59.4%(季節調整値: APIR 推計)と、前月から-14.8%ポイント減少し、4 カ月連続のマイナス。2009 年 6 月(57.0%)以来の低水準で、好不況の境目である 70%を 6 カ月ぶりに下回った。契約率を地域別にみると、奈良県(100%)、神戸市部(81.1%)、滋賀県(72.6%)が高水準を記録した。一方、兵庫県下(39.7%)、大阪府下(49.0%)などは低水準であった。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2010年1月~2019年11月)



(出所) 株式会社不動産経済研究所「マンション市場動向」

同月の首都圏のマンション契約率は 56.9%(季節調整値: APIR 推計)で、前月比では+11.3%ポイントとなった。3 カ月ぶりの改善だが、好不況の境目である 70%を 3 カ月連続で下回った。

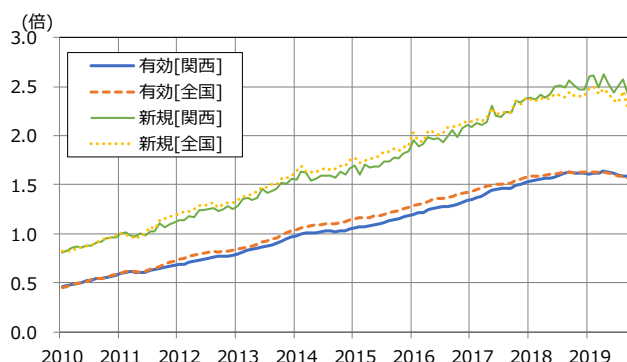
【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

関西 10 月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.58 倍で前月比-0.01 ポイントと、2019 年 5 月以降、9 月を除き悪化している。内訳をみると、有効求人数は同-1.4%で 6 カ月ぶりのマイナス。有効求職者数は同-0.7%で 6 カ月ぶりに減少。前者のマイナス幅が後者よりも大きい。

府県別に見ると、大阪府は 1.78 倍で前月比+0.01 ポイントと、2 カ月連続の改善。一方、兵庫県は 1.40 倍で同-0.01 ポイント(3 カ月ぶり)、滋賀県は 1.28 倍で同-0.02 ポイント(3 カ月連続)、和歌山県は 1.37 倍で同-0.03 ポイント(2 カ月ぶり)、奈良県は 1.42 倍で同-0.03 ポイント(4 カ月連続)、京都府は 1.55 倍で同-0.03 ポイント(4 カ月連続)と、それぞれ悪化した。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月~2019年10月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西 2 府 4 県有効求人倍率(2019 年 9 月~10 月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
9月	1.57	1.59	1.30	1.58	1.77	1.41	1.45	1.40
10月	1.57	1.58	1.28	1.55	1.78	1.40	1.42	1.37
前月差	0.00	▲ 0.01	▲ 0.02	▲ 0.03	0.01	▲ 0.01	▲ 0.03	▲ 0.03

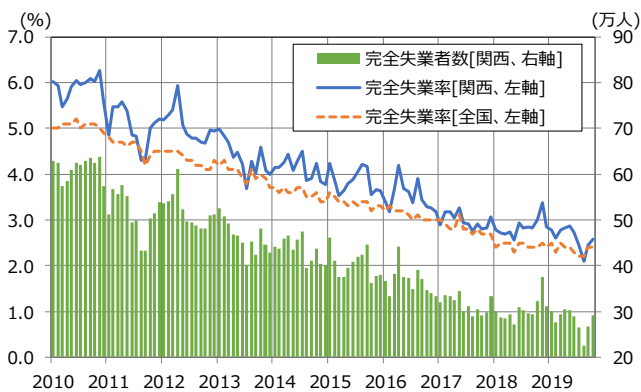
また、関西 10 月の新規求人倍率は 2.53 倍で前月比+0.11 ポイント上昇し、2 カ月ぶりに改善。内訳をみると、新規求人数は同-0.3%と 2 カ月連続で減少。新規求職者数は同-4.3%と 2 カ月ぶりに減少した。求人数・求職者数ともに減少したが、求人数の減少幅より求職者数の方が大きかった。

全国 10 月の有効求人倍率(季節調整値)は 1.57 倍と前月比横ばい。新規求人倍率は 2.44 倍で同+0.16 ポイント上昇し、2 カ月ぶりに改善した。

(2) 完全失業率の推移

関西 10 月の完全失業率(季節調整値:APIR 推計)は 2.6%と前月比+0.1%ポイント上昇し、2 カ月連続で悪化した。完全失業者数(季節調整値:APIR 推計)は 29.2 万人で前月差+2.5 万人と 2 カ月連続で増加した。労働力人口(季節調整値:APIR 推計)は、前月差+14.1 万人と 2 カ月ぶりに増加。また、就業者数(季節調整値:APIR 推計)も同+9.3 万人と 2 カ月ぶりに増加した。完全失業者数は増加したが、それを上回る就業者数の増加があった。

完全失業率の推移(2010 年 1 月~2019 年 10 月)



(出所)総務省「労働力調査」

全国 10 月の完全失業率(季節調整値)は 2.4%と、前月比横ばい。完全失業者数(季節調整値)は 166 万人と同-1 万人減少した。理由別では、「非自発的な離職」(36 万人)は同横ばい、「自発的な離職(自己都合)」(75 万人)は同+6 万人増加、「新たに求職」(41 万人)は同-1 万人減少した。

【公共投資・建設工事】

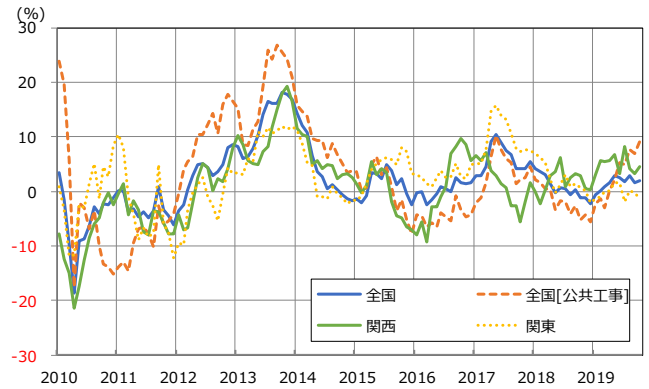
(1) 建設工事

関西 10 月の建設工事出来高は 5,897 億円となり、前年同月比+4.5%と 20 カ月連続で増加した。関東は 1 兆 6,776 億円となり、同-1.3%と 2 カ月連続で減少した。

全国 10 月の建設工事出来高は 4 兆 9,453 億円と、前年同月比+2.0%と 9 カ月連続で増加した。うち、民間工事は 2 兆 8,294 億円で同-2.8%と、2 カ月連続で減少した。公共工事は 2 兆 1,160 億円で同+9.2%と 7 カ月連続の増加。

今後、台風 19 号による被害からの復旧・復興事業で公共工事が拡大すると見込まれる。しかし、関西では他地域に比べて深刻な被害がなかったことから、伸びは限定的となろう。

建設工事出来高の推移(2010 年 1 月~2019 年 10 月)

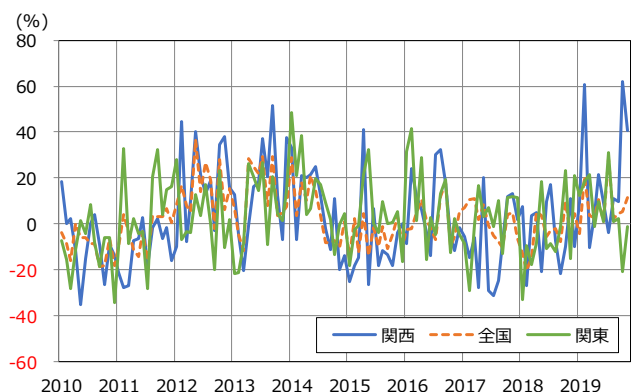


(注) 2016 年 4 月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。(出所)国土交通省「建設総合統計」

(2) 公共工事請負金額

関西 11 月の公共工事請負金額は 1,332 億円で前年同月比+40.7%と、4 カ月連続の増加となった。季節調整値(APIR 推計)でみると、前月比+1.0%と大幅に伸びた前月(同+71.6%)の高水準を維持している。府県別に見ると、滋賀県前年同月比+31.0%、兵庫県同+25.5%、奈良県同+24.3%、和歌山県同+14.5%、大阪府同+11.8%、京都府同+8.2%と、すべての府県で増加した。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010 年 1 月~2019 年 11 月)

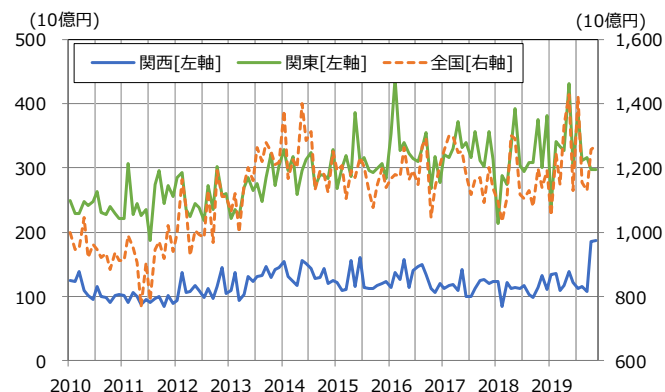


(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

関東は 2,302 億円で前年同月比-1.1%と 2 カ月連続の減少。全国は 9,110 億円で同+11.3%と 10 カ月連続で増加し

た。季節調整値(APIR 推計)で見ると、関東は前月比+0.2%と2カ月ぶりの増加、全国は同+0.8%と2カ月連続の増加となった。

公共工事請負金額(季調値)の推移(2010年1月~2019年11月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

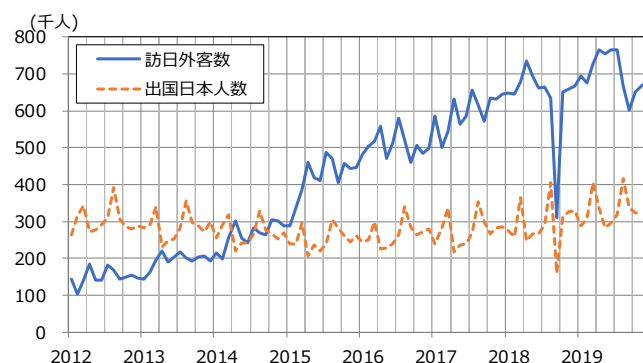
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

11月の関空への外国人入国者数は66万9,460人で、前年同月比+1.4%と14カ月連続のプラスだが、前月(同+0.2%)に引き続き小幅にとどまった。また、外国人出国者数は64万8,980人と同-0.1%で13カ月ぶりに小幅減少。結果、外国人入出国者数は131万8,440人と同+0.7%と14カ月連続の増加となった。

日本人出国者数は32万610人で、前年同月比-1.4%と14カ月ぶりに減少した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月~2019年11月)



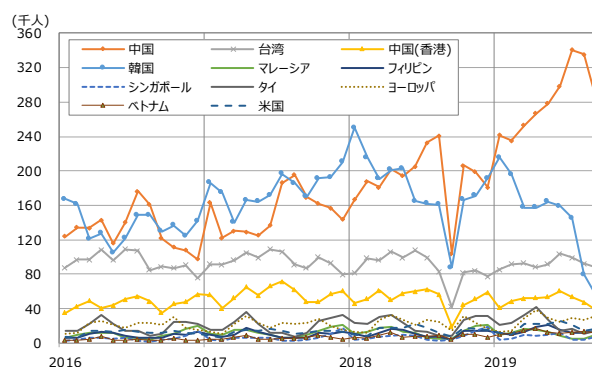
(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

9月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、中国(香港除く)からの入国者が28万4,569人(前年同月比+174.8%)と最多であった。次いで、台湾が8万7,315人(同+109.2%)、韓国が5万4,900人(同-37.3%)、香港が3万7,805人(同+102.8%)であった。中国は12カ月連続、台湾は3カ月連続、香港は3カ月ぶりの前年比増だが、韓国は16カ月連続で同減少した。なお、昨年9月は台風被害の影響もあるため17年比で見れば、中国は+67.8%、台湾は+0.4%、韓国は-67.7%、香港は-20.9%であった。

他のアジア各国は、タイが1万4,357人(前年同月比+81.1%)、フィリピンが1万3,963人(同+264.4%)、ベトナムが1万1,156人(同+209.2%)、マレーシアが9,103人(同+97.5%)、シンガポールが7,038人(同+127.3%)、であった。アジア以外の他地域を見ると、欧州全体では3万1,215人(同+131.6%)、米国が1万5,849人(同+142.1%)であった。ラグビーワールドカップ開催(9月20日~11月2日)により、欧米の一部の国では高い伸び率を示しているようである。

地域別訪日外客数(2016年1月~2019年9月まで)



(出所)法務省「出入国管理統計」

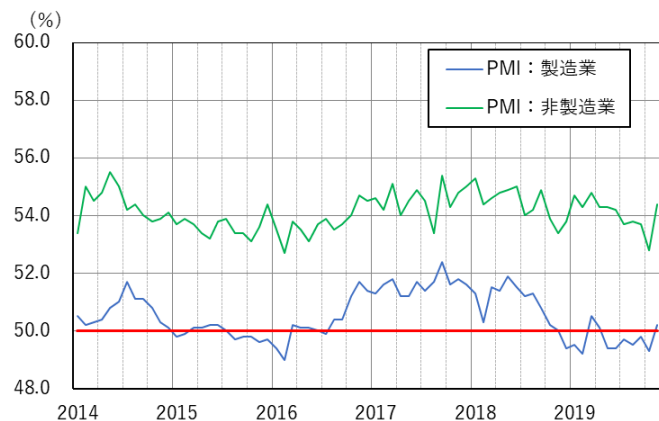
【中国景気モニター】

(1) センチメント

11月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.2となり、前月比+0.9ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善であった。また、7カ月ぶりに景気分岐点(50)を上回った。非製造業 PMI

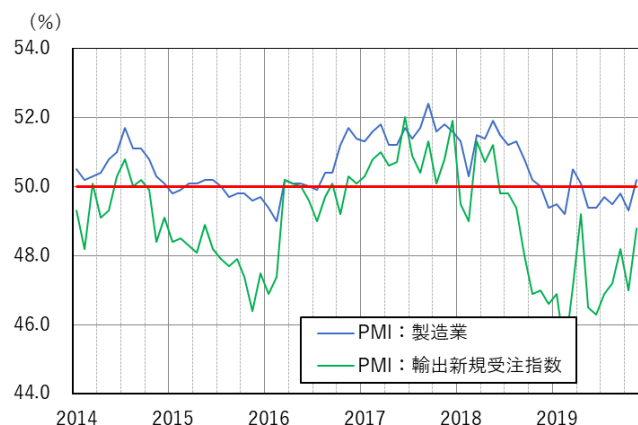
は54.4となり、同+1.6%ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年11月)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年11月)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

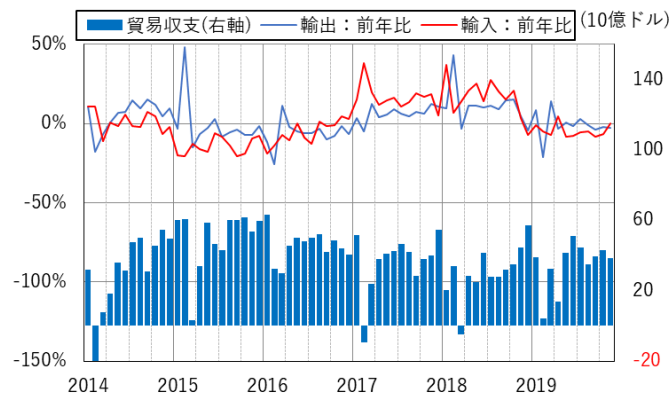
製造業 PMI のうち、生産指数は52.6と前月から+1.8%ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は48.8と同+1.8%ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。米国の制裁関税(18年3月公表、7月から実施)の影響を受け、18年6月以降18カ月連続で50を下回った。雇用指数は47.3で前月から横ばい。また、32カ月連続で50を下回っている。

(2) 貿易動向

11月の貿易収支は387.3億ドルで20カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,217.4億ドル、前年同月比-2.5%と4カ月連続の減少。輸入額は1,830.1億ドル、同+0.1%と7カ月ぶりの小幅増加。なお、貿易総額(輸

出+輸入)は同-1.3%と、7カ月連続の減少となった。依然貿易活動は収縮している。

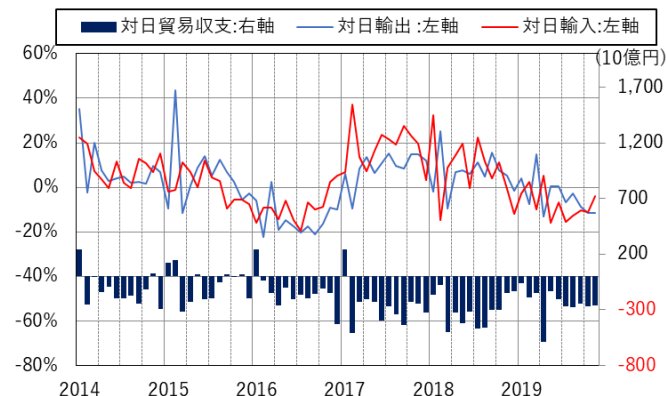
中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年1月~2019年11月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

また、対日貿易収支は-24.1億ドルとなり、34カ月連続の赤字となった。対日輸出額は128.9億ドルとなり、前年同月比-7.8%と3カ月連続の減少。対日輸入額は152.9億ドルとなり、同-0.1%で7カ月連続の減少。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同-11.5%と5カ月連続の減少。また、対日輸入額は同-4.1%と7カ月連続の減少である。

日本との貿易(円ベース, 2014年1月~2019年11月)

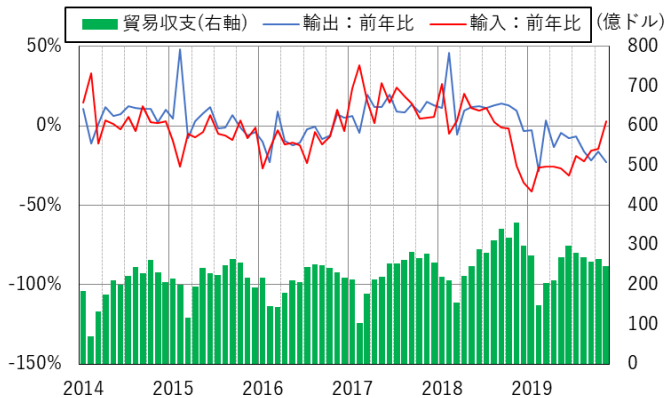


(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

[対米貿易]

11月の中国の対米貿易黒字は246.1億ドル(前月:264.5億ドル)となり、前年同月比-30.8%縮小した。5カ月連続のマイナス。同月の対米輸出額は355.8億ドルと同-23.0%で、8カ月連続の減少。また、対米輸入額は109.7億ドルとなり、同+2.7%と15カ月ぶりに増加した。

対米輸出入の動向(2014年1月~2019年11月)



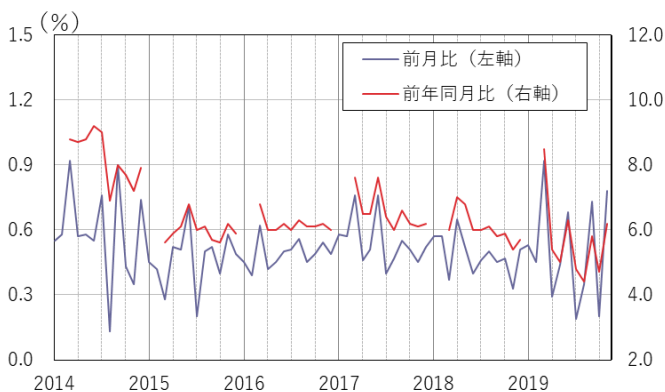
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

12月14日、米中貿易交渉は第1段階の合意に達し、合意の具体的な内容はまだ公表されていないが、米国は、中国に対する制裁関税の一部引き下げを決定し、中国は、農産品の購入と知的財産権の保護などについて表明した。

(3) 工業生産

11月の工業生産は前月比+0.78%上昇し、伸びは10月から+0.58%ポイント加速した。また、前年同月比+6.2%上昇し、10月から+1.5%ポイント加速した。

工業生産指数(2014年1月~2019年11月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見ると、電気機械・機材製造業(前年同月比+12.6%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+10.7%)、パソコン・通信設備製造業(同+9.7%)などが高い伸びを示す一方、医薬製造業(同+5.1%)、繊維工業(同+2.5%)、鉄道・輸送機器製造業(同+0.1%)などは比較的低調な伸びにとどまった。

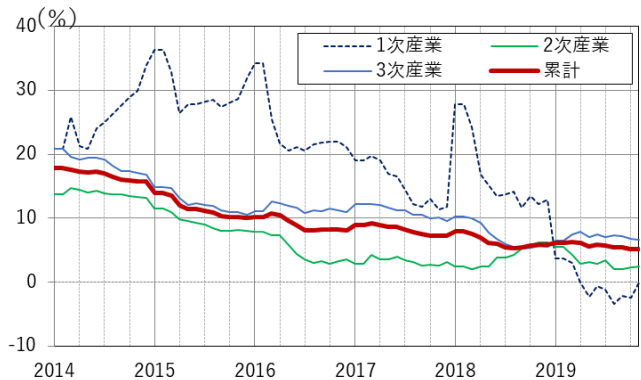
なお、自動車製造業(同+7.7%)は4カ月連続の増産となった。農業副食品加工業(同-0.6%)は3カ月連続の減産となった。

(4) 固定資産投資

1-11月期の累積固定資産投資(名目)は前年同期比+5.2%となり、1-10月期と横ばい。

産業別にみると、第1次産業は前年比-0.1%減少し、減少幅は前月から2.3%ポイント縮小した。第2次産業は同+2.4%増加し、増加幅は前月から0.1%ポイント拡大。第3次産業は同+6.7%増加し、増加幅は前月から0.1%ポイント縮小した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年1月~2019年11月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

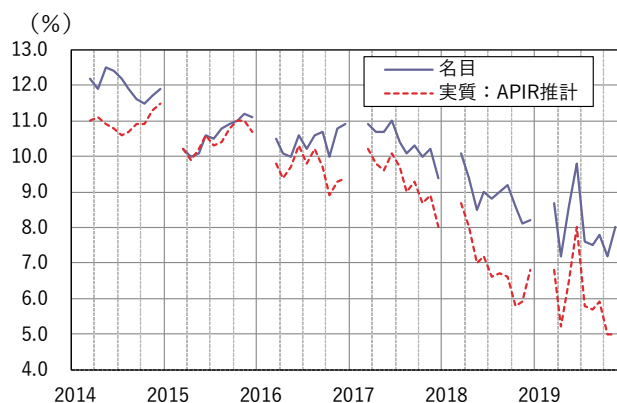
(5) 消費

11月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+8.0%となり、伸びは前月から0.8%ポイント拡大した。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR推計)をみると、伸びは同+4.9%と前月と横ばい。

都市部の社会消費品小売総額の前年同月比は+7.9%となり、伸びは前月から0.9%ポイント拡大した(2カ月ぶりの加速)。農村部の社会消費品小売総額は同+9.1%となり、伸びは前月より0.5%ポイント拡大した(2カ月ぶりの加速)。

「双十一(11月11日)」セールの影響で、11月電子商取引の社会消費品小売総額は1.27兆円で、前年同月比は+24.6%である。伸びは前月より7.7%ポイント拡大し、4カ月連続の加速であった。

社会消費品小売総額(2014年1月~2019年11月)

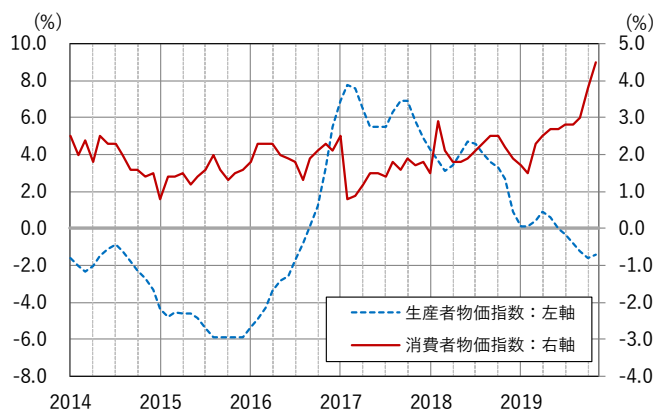


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

11月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+4.5%で、前月から+0.7%ポイント上昇した。うち、食品価格は同+19.1%上昇し、CPIへの寄与度は+3.72%ポイントであった。食品のうち、肉類価格の継続的な上昇が見られている。豚肉価格は同+110.2%上昇し、牛肉、羊肉、鶏肉、鴨肉とたまご価格は+11.8%~+25.7%上昇している。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014年1月~2019年11月)



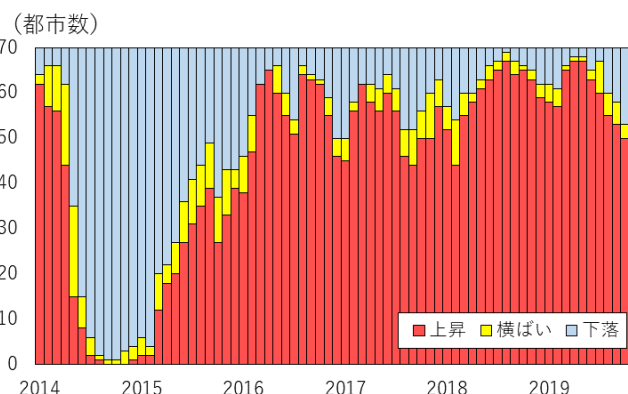
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

また、生産者物価指数(PPI)は、前年同月比-1.4%と5カ月連続のマイナス。伸びは前月から0.2%ポイント拡大し、7カ月ぶりの加速となった。うち、生産財(生産資料)価格は同-2.5%下落し、下落幅は前月から0.1%ポイント縮小した。消費財(生活資料)価格は同+1.6%上昇し、上昇幅は前月から0.2%ポイント拡大した。

(7) 不動産市場

11月の不動産市場は、低迷が続いている。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は44で前月から6都市減少した(6カ月連続)。一方、下落した都市数は21で前月から4都市増加(4カ月連続)。また、横ばいの都市数は5で前月から2都市増加した。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~2019年11月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	18/11M	18/12M	19/1M	19/2M	19/3M	19/4M	19/5M	19/6M	19/7M	19/8M	19/9M	19/10M	19/11M
景 況 感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	50.8	49.9	45.4	48.0	47.0	47.2	45.1	45.0	43.8	45.3	50.4	39.9	40.2
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	53.1	47.4	50.7	50.4	50.6	51.0	47.5	49.8	46.3	42.3	37.2	45.1	46.2
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	49.5	46.8	45.6	47.5	44.8	45.3	44.1	44.0	41.2	42.8	46.7	36.7	39.4
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	50.8	47.9	49.4	48.9	48.6	48.4	45.6	45.8	44.3	39.7	36.9	43.7	45.7
消 費 者 心 理 ・ 小 売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	42.4	42.5	41.8	40.6	40.1	40.0	39.5	39.0	38.2	36.9	35.7	36.1	38.1
[関西]「暮らし向き」(原数値)	40.3	40.6	40.2	38.1	37.2	37.3	37.1	36.9	36.4	35.5	33.8	34.3	37.9
[関西]「収入の増え方」(原数値)	40.9	40.6	40.8	39.8	39.2	39.3	40.0	39.7	39.6	39.6	38.9	38.0	39.4
[関西]「雇用環境」(原数値)	46.4	46.0	44.1	44.1	44.0	44.2	43.2	43.4	42.0	41.1	41.8	40.6	40.6
[関西]「耐久消費財の買い時判断」(原数値)	42.0	42.6	41.9	40.5	39.8	39.0	37.5	35.8	34.7	31.3	28.1	31.6	34.6
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	42.8	42.6	41.8	41.5	40.5	40.4	39.4	38.7	37.8	37.1	35.6	36.2	38.7
[関西]大型小売店販売額(10億円)	321.4	407.1	321.5	282.5	317.7	302.5	304.1	308.1	319.6	307.2	327.2	282.8	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	-2.4	-0.8	-3.4	-1.3	0.2	-0.8	0.4	0.5	-3.4	0.8	13.7	-8.9	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,643.7	2,082.5	1,632.2	1,434.5	1,654.4	1,535.4	1,563.1	1,597.7	1,624.2	1,589.7	1,671.7	1,457.7	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	-1.7	-0.5	-3.0	-1.5	1.0	-1.4	-0.2	-0.3	-4.5	0.9	10.4	-8.1	UN
住 宅 ・ 建 設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	12,329	11,360	11,371	11,310	11,626	11,897	10,253	11,318	12,849	10,737	11,852	11,314	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	4.8	11.1	23.7	-0.7	7.8	-11.2	-27.5	-3.6	5.7	-8.8	-5.5	-1.6	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	84,213	78,364	67,087	71,966	76,558	79,389	72,581	81,541	79,232	76,034	77,915	77,123	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	-0.6	2.1	1.1	4.2	10.0	-5.7	-8.7	0.3	-4.1	-7.1	-4.9	-7.4	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	73.6	75.1	70.5	75.2	83.0	76.1	67.0	70.9	82.5	80.9	78.7	74.2	59.4
[関西]マンション契約率(原数値)	74.4	72.1	70.2	75.8	80.6	75.9	67.7	73.3	83.1	84.9	75.7	73.8	60.1
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	55.5	50.2	70.8	64.6	69.2	65.5	60.1	64.2	63.2	75.0	55.4	45.6	56.9
[首都圏]マンション契約率(原数値)	53.9	49.4	67.5	65.5	72.2	64.3	60.0	65.9	67.9	75.4	56.8	42.6	55.2
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	94.7	88.0	71.4	80.0	109.3	220.6	141.5	147.1	135.3	106.0	120.0	189.6	133.2
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	10.9	-9.8	9.1	60.5	-10.5	4.2	21.6	9.4	-4.0	11.1	9.8	62.2	40.7
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	818.9	834.0	585.3	739.0	1,316.5	2,232.9	1,420.4	1,447.9	1,609.1	1,149.3	1,275.1	1,348.0	911.0
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-5.2	4.6	-4.1	20.4	3.7	2.5	10.5	1.0	28.5	2.2	4.6	5.1	11.3
[関西]建設工事(総合、10億円)	589.8	610.4	607.9	602.7	589.7	511.8	514.7	530.2	545.8	551.7	572.4	589.7	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	0.5	0.2	3.0	5.7	5.6	5.6	6.7	3.3	8.1	4.2	3.3	4.5	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,915.6	4,945.3	4,897.0	4,811.8	4,790.7	4,023.6	4,002.9	4,231.1	4,343.4	4,574.6	4,782.4	4,945.3	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	-1.1	-2.2	-0.7	0.1	0.8	1.6	2.8	2.6	1.9	2.9	1.6	2.0	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,996.5	2,042.2	2,047.5	2,013.0	1,985.8	1,456.7	1,410.4	1,558.4	1,616.2	1,768.8	1,954.4	2,116.0	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	-4.2	-5.6	-2.3	-1.4	-3.0	0.1	2.1	5.3	4.9	7.7	7.0	9.2	UN
生 産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.5	103.9	102.5	102.4	99.6	101.3	102.5	100.0	104.7	100.3	104.4	98.6	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-1.9	-0.6	-1.3	-0.1	-2.7	1.7	1.2	-2.4	4.7	-4.2	4.1	-5.6	UN
[関西]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	1.2	-3.2	-0.2	-3.9	-7.0	-3.6	-4.2	-7.3	2.7	-7.2	6.0	-10.9	UN
[関西]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	-2.8	-1.7	-2.8	-1.3	-0.2	0.4	0.3	5.6	6.6	8.2	3.2	4.8	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	104.1	103.1	103.0	100.6	99.7	100.6	102.8	97.9	104.2	100.2	107.2	98.3	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	-4.7	-1.0	-0.1	-2.3	-0.9	0.9	2.2	-4.8	6.4	-3.8	7.0	-8.3	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	99.0	100.1	98.6	100.0	101.8	102.0	101.0	105.0	105.0	105.7	102.0	103.6	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	0.2	1.1	-1.5	1.4	1.8	0.2	-1.0	4.0	0.0	0.7	-3.5	1.6	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.6	104.7	102.1	102.8	102.2	102.8	104.9	101.4	102.7	101.5	103.2	98.6	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.9	0.1	-2.5	0.7	-0.6	0.6	2.0	-3.3	1.3	-1.2	1.7	-4.5	UN
[全国]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	1.1	-3.1	-0.1	-0.3	-4.0	-1.4	-1.8	-4.9	1.9	-4.5	2.2	-7.3	UN
[全国]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	0.4	1.7	1.2	1.4	0.2	1.2	1.5	3.0	2.5	2.6	0.9	2.6	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	102.8	103.1	100.6	102.2	100.9	102.7	104.0	99.8	102.5	101.2	102.7	98.1	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	-1.5	0.3	-2.4	1.6	-1.3	1.8	1.3	-4.0	2.7	-1.3	1.5	-4.5	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	101.6	102.9	102.0	102.4	103.8	103.8	104.3	104.7	104.5	104.4	102.9	104.2	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	0.1	1.3	-0.9	0.4	1.4	0.0	0.5	0.4	-0.2	-0.1	-1.4	1.3	UN
労 働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	2.0	-1.7	1.0	0.1	-2.1	-0.1	0.0	-1.2	UN	UN	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	2.6	-1.3	1.3	0.7	-2.0	0.4	0.2	-1.3	0.4	-0.9	-0.0	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	1.7	1.5	-0.6	-0.7	-1.3	-0.3	-0.5	0.4	-1.0	-0.1	0.5	UN	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.4	2.9	2.8	2.6	2.8	2.8	2.9	2.7	2.4	2.1	2.5	2.6	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.1	2.6	2.7	2.7	2.8	2.7	2.8	2.8	2.6	2.2	2.7	2.6	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.5	2.4	2.5	2.3	2.5	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.4	2.4	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.47	2.47	2.60	2.61	2.49	2.62	2.52	2.44	2.50	2.57	2.42	2.5	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.40	2.40	2.48	2.50	2.42	2.48	2.43	2.36	2.34	2.45	2.28	2.4	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.62	1.62	1.61	1.62	1.62	1.64	1.63	1.62	1.60	1.59	1.59	1.6	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63	1.62	1.61	1.59	1.59	1.57	1.6	UN
国 際 貿 易													
[関西]純輸出(10億円)	19.1	178.9	-184.6	213.8	273.5	101.0	-9.4	269.9	69.1	120.3	200.9	190.3	114.3
[関西]輸出(10億円)	1,504.9	1,474.8	1,179.9	1,320.0	1,500.1	1,354.5	1,250.9	1,350.3	1,410.2	1,321.5	1,415.1	1,398.4	1,355.3
[関西]輸出(前年同月比%)	-1.0	-7.2	-8.9	-1.9	-6.3	-5.7	-10.4	-10.9	-1.7	-12.9	27.5	-7.8	-9.9
[関西]輸入(10億円)	1,485.9	1,295.9	1,364.5	1,106.2	1,226.6	1,253.5	1,260.3	1,080.4	1,341.1	1,201.2	1,214.0	1,208.1	1,240.9
[関西]輸入(前年同月比%)	9.5	-2.8	0.1	-9.8	-1.4	3.6	-5.1	-13.8	-0.6	-10.5	30.2	-13.9	-16.5

注：鉱工業生産 輸送機械工業は銅鋼・鉄道車両除く。

Release Calendar for November/December

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
25-Nov 近畿地域 鉱工業生産動向 (9月確報)* 出入国管理統計 (9月)*	26-Nov	27-Nov	28-Nov 商業動態統計 (10月:速報) 全国貿易統計 (9月:確報値) 全国貿易統計 (10月:確・速)	29-Nov 一般職業紹介状況 (10月) 労働力調査(10月) 消費動向調査(11月) 全国鉱工業生産指数 (10月:速報値) 建築着工統計調査 (10月)
2-Dec 中国 PMI (11月)	3-Dec	4-Dec	5-Dec 百貨店・スーパー販売状 況(10月:速報値)	6-Dec 毎月勤労統計調査 (10月:速報値)
9-Dec 景気ウォッチャー調査 (11月) 中国輸出入 (11月:速報値)	10-Dec 近畿地域 鉱工業生産動向 (10月:速報値) 近畿圏貿易概況 (9月:確報値)* 近畿圏貿易概況 (10月:確・速)* 中国 CPI&PPI (11月)	11-Dec	12-Dec	13-Dec 商業動態統計 (10月:確報値) 全国鉱工業生産指数 (10月:確報値) 公共工事前払金保証 統計(11月)
16-Dec 中国固定資産投資 (11月) 中国工業生産(11月) 中国消費小売総額 (11月) 中国不動産市場** (11月)	17-Dec マンション市場動向 (11月) 建設総合統計(10月)	18-Dec 全国貿易統計 (11月:速報) 近畿圏貿易概況 (11月速報)	19-Dec 出入(帰)国者数 (11月)*	20-Dec 毎月勤労統計調査 (10月:確報値)
23-Dec 中国輸出入 (11月:確定値)	24-Dec 近畿地域 鉱工業生産動向 (10月:確報値)	25-Dec 出入国管理統計 (10月)*	26-Dec 全国貿易統計 (10月:確報値) 全国貿易統計 (11月:確・速) 建築着工統計調査 (11月)	27-Dec 全国鉱工業生産指数 (11月:速報値) 一般職業紹介状況 (11月) 労働力調査(11月) 商業動態統計 (11月:速報)
30-Dec	31-Dec 中国 PMI (12月)	1-Jan	2-Jan	3-Jan

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。